高等学校教科書「国語Ⅰ」・「国語Ⅱ」における近・現代俳句教材

貞　光　　威

Haiku as Teaching Materials in Senior High School Textbooks Japanese I and II

Takeshi Sadamitsu

Received Sep. 30, 1996

要　　旨

高等学校で現在使用されている教科書「国語Ⅰ」・「国語Ⅱ」において，近・現代俳句の教材がどのように扱われているかを，各出版社から発行されているすべての教科書，26種類について調査した。すなわち，教材の組み立て方・収録された俳句の数・誰のどの俳句を載せているか・自由律や無季の俳句をどの程度載せているか・多くの教科書に掲載されている俳句はどの俳人のどの句か，などについて調査し，10年前に調査したときと比べて，どう変わっているかを探り，一部の教科書ではあるが，いろいろの新しい試みのなされていることを明らかにし，その可能性と問題点について考察した。

キーワード: 高等学校　教科書　俳句

1，は　じ　め　に

この稿は，現行の高等学校の国語教科書「国語Ⅰ」および「国語Ⅱ」において，近・現代俳句に関する教材がどのように取り扱われているかを，各出版社から発行されているすべての教科書26種を対象にして調査し，その特色と問題点について考察したものである。

高等学校の「国語Ⅰ」・「国語Ⅱ」という科目は，1978年（昭和53年）に改訂された「高等学校学習指導要領」に基づいて新設された科目で，この指導要領に基づいて編集された高等学校用教科書は，「国語Ⅰ」の場合，1981年の検定に合格したものが1982年度から現場で使用されるようになり，「国語Ⅱ」は1982年の検定に合格したものが1983年度から使用されるようになった。その後，「国語Ⅰ」も「国語Ⅱ」も，それぞれ３年を経て，その改訂版が作られ，多少の変更はあったが，それほど大きな変更は見られなかった。

ところが，1989年（平成元年）に再び「高等学校学習指導要領」が改訂された。それに基づいて新しく教科書も編集しなおされて，「国語Ⅰ」の場合，1993年の検定に合格したものが1994年度から現場で使用されるようになり，「国語Ⅱ」の場合は1994年の検定に合格した

ものが1995年度から使用されるようになって，現在に至っている。この現行の教科書は，名称は従来の「国語Ⅰ」・「国語Ⅱ」と変わらないが，内容には相当の違いが見られる。

稿者は今から約10年前の1987年３月に，今回とほぼ同じ方法によって，1978年（昭和53年）に改訂された「高等学校学習指導要領」に基づいて編集され，当時，使用されていた「国語Ⅰ」・「国語Ⅱ」について近代俳句に関する教材がどのように取り扱われているかを，各出版社から発行されているすべての教科書17種を対象にして調査し，その特色と問題点について考察している。今回は，この調査の結果を，前回のそれと比較しながら検討することにしたい。

今回，考察の対象として取り扱うことにした「国語Ⅰ」および「国語Ⅱ」の教科書は，下の〔表１〕のように，13の出版社から発行された26種類である。この表の26種類の教科書の配列の順序は，文部省発行の『高等学校教科書目録』における配列の順序に従った。

なお，右文書院発行の，Ｎの「高等学校新国語Ⅰ」およびＯの「高等学校国語Ⅰ」の場合は，「高等学校新国語Ⅱ」「高等学校国語Ⅱ」という教科書がなく，次の学年ではいずれの場合も「高等学校総合国語Ⅱ」を使用することになっている。そのため「高等学校新国語Ⅰ」と「高等学校総合国語Ⅱ」を組み合わせたものをＮとし，「高等学校新国語Ⅰ」と「高等学校総合国語Ⅱ」を組み合わせたものをＯとした。

また，〔表１〕には発行所・書名・著作者のほかに，「教科書の略称」を記した。これは，あとの〔表５〕「作者別掲載俳句一覧表」において，それぞれの俳句がどの教科書に掲載されているかを一覧表の形で示すときの便宜のためである。なお，文部省発行の『高等学校教科書目録』にも漢字２字または３字の略称が記されているが，それは「発行所の略称」であって，この〔表１〕の「教科書の略称」と同じではない。１社から２種類以上の国語教科書を出している場合に，それぞれの教科書を区別するために，教科書別に略称を作った。略称はすべて漢字２字に統一した。

表１　「国語Ⅰ」・「国語Ⅱ」教科書一覧

記号	発行所	書名	教科書の略称	著作者
A	日本書籍株式会社	新版高等国語Ⅰ・Ⅱ	日　書	大久保典夫ほか13名
B	東京書籍株式会社	国語Ⅰ・Ⅱ	東　書	吉田熙生ほか18名
C	東京書籍株式会社	新編国語Ⅰ・Ⅱ	東　新	吉田熙生ほか18名
D	学校図書株式会社	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	学　図	阿川弘之・野家潤家ほか17名
E	学校図書株式会社	基礎国語Ⅰ・Ⅱ	学　基	阿川弘之・野家潤家ほか17名
F	株式会社　三省堂	国語Ⅰ・Ⅱ	三　省	廣末保・金谷治ほか10名
G	株式会社　三省堂	明解国語Ⅰ・Ⅱ	三　明	柴田武ほか９名
H	教育出版株式会社	国語Ⅰ・Ⅱ	教　出	加藤周一・柳井滋・浅井清ほか10名

I	株式会社 大修館書店	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	大　修	平岡敏夫・北原保雄・田口和夫ほか24名
J	株式会社 大修館書店	高等学校新国語Ⅰ・Ⅱ	大　新	平岡敏夫・北原保雄・田口和夫ほか24名
K	株式会社 大修館書店	現代の国語Ⅰ・Ⅱ	大　現	平岡敏夫・北原保雄・田口和夫ほか24名
L	株式会社　明治書院	高校生の国語Ⅰ・Ⅱ	明　治	紅野敏郎・築島裕・久保田淳ほか31名
M	株式会社　明治書院	精選新国語Ⅰ・Ⅱ	明　精	紅野敏郎・築島裕・久保田淳ほか31名
N	株式会社　右文書院	高等学校新国語Ⅰ 高等学校総合国語Ⅱ	右　新	助川徳是・高橋和夫ほか13名
O	株式会社　右文書院	高等学校国語Ⅰ 高等学校総合国語Ⅱ	右　文	田島毓堂・中村幸弘ほか９名
P	株式会社　筑摩書房	国語Ⅰ・Ⅱ	筑　摩	秋山虔・猪野謙二・分銅惇作ほか６名
Q	株式会社　筑摩書房	新編国語Ⅰ・Ⅱ	筑　新	秋山虔・猪野謙二・分銅惇作ほか６名
R	株式会社　角川書店	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	角　川	吉川泰雄・大野晋・山田俊雄ほか17名
S	株式会社　旺文社	新国語Ⅰ・Ⅱ	旺　新	松村明・山田有策・中村幸弘・松岡栄志ほか６名
T	株式会社　旺文社	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	旺　文	松村明・岡保生・安西廸夫・尾上兼英ほか７名
U	株式会社　尚学図書	新選国語Ⅰ・Ⅱ	尚　選	大岡信・徳川宗賢・長尾高明・野山嘉正ほか14名
V	株式会社　尚学図書	標準国語Ⅰ・Ⅱ	尚　標	大岡信・徳川宗賢・長尾高明・野山嘉正ほか14名
W	株式会社　尚学図書	新国語Ⅰ・Ⅱ	尚　新	大岡信・徳川宗賢・長尾高明・野山嘉正ほか14名
X	株式会社　第一学習社	高等学校新編国語Ⅰ・Ⅱ	一　新	稲賀敬二・市川孝・竹盛天雄・ほか26名
Y	株式会社　第一学習社	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	第　一	稲賀敬二・市川孝・竹盛天雄・ほか26名
Z	株式会社　第一学習社	高等学校新訂国語Ⅰ・Ⅱ	一　訂	稲賀敬二・市川孝・竹盛天雄・ほか26名

2，各教科書における近・現代俳句教材

まず初めに，26種類の教科書がそれぞれ近・現代俳句教材にどの程度の比重を置いているかを大まかに知る手がかりとして，収載する近・現代俳句作品の数と，近・現代俳句の鑑賞文を載せているか否かを調べてみると，下の〔表２〕のようになる。

表２　収載する近・現代俳句の数と鑑賞文等の有無

記号	発行所	書名	作品		鑑賞文		合計
			国１	国２	国語１	国語２	
A	日本書籍	新版高等国語Ⅰ・Ⅱ	——	15	折々のうた　8 大岡　信	——	23

B	東京書籍	国語Ⅰ・Ⅱ	9	30	――	――	39
C	東京書籍	新編国語Ⅰ・Ⅱ	9	12	――	――	21
D	学校図書	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	／	18	／	野面積みの石垣　1 飯田龍太	19
E	学校図書	基礎国語Ⅰ・Ⅱ	／	22	／	――	22
F	三省堂	国語Ⅰ・Ⅱ	12	／	――	／	12
G	三省堂	明解国語Ⅰ・Ⅱ	12	／	俳句とは　0 編修委員会	／	12
H	教育出版	国語Ⅰ・Ⅱ	10	／	折々のうた　3 大岡　信	／	13
I	大修館	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	14	14	――	――	28
J	大修館	高等学校新国語Ⅰ・Ⅱ	19	23	季節と歳時記　0 編修委員会	――	42
K	大修館	現代の国語Ⅰ・Ⅱ	16	16	――	――	32
L	明治書院	高校生の国語Ⅰ・Ⅱ	15	15	――	――	30
M	明治書院	精選新国語Ⅰ・Ⅱ	15	15	――	――	30
N	右文書院	高等学校新国語Ⅰ 高等学校総合国語Ⅱ	16	21	――	――	37
O	右文書院	高等学校国語Ⅰ 高等学校総合国語Ⅱ	16	21	――	――	37
P	筑摩書房	国語Ⅰ・Ⅱ	24	／	――	／	24
Q	筑摩書房	新編国語Ⅰ・Ⅱ	／	24	／	――	24
R	角川書店	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	25	21	――	――	46
S	旺文社	新国語Ⅰ・Ⅱ	／	12	／	――	12
T	旺文社	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	／	30	／	俳句の魅力　1 松本恭子	31
U	尚学図書	新選国語Ⅰ・Ⅱ	18	18	――	――	36
V	尚学図書	標準国語Ⅰ・Ⅱ	15	15	――	――	30
W	尚学図書	新国語Ⅰ・Ⅱ	／	14	／	――	14
X	第一学習社	高等学校新編国語Ⅰ・Ⅱ	／	14	／	――	14
Y	第一学習社	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	／	21	／	――	21
Z	第一学習社	高等学校新訂国語Ⅰ・Ⅱ	／	21	／	――	21

上の〔表2〕の「作品」および「鑑賞文」の欄の斜線[／]は，その教科書に近・現代俳句を扱う単元が設けられていないことを示す。また，「俳句」および「鑑賞文」の欄の横線[——]は，その教科書に近・現代俳俳句扱う単元が設けられてはいるが，そこに俳句あるいは鑑賞文の類が載せられていないことを示す。

この表を見てわかるように，26種類の教科書は，いずれも少なくとも「国語Ⅰ」か「国語Ⅱ」のどちらかにおいて，近・現代俳句を教材として載せており，半数を超える14種類の教科書では，「国語Ⅰ」と「国語Ⅱ」の両方に俳句の教材を置いている。

「国語Ⅰ」と「国語Ⅱ」の両方に近・現代俳句の教材を置いている教科書の中には，Ｒの角川書店の「高等学校国語Ⅰ・Ⅱ」の46句，Ｊの大修館の「高等学校新国語Ⅰ・Ⅱ」の42句などのように，かなり多くの近・現代俳句を載せている教科書が見られる。載せている近・現代俳句の比較的に多い教科書を，その数の多い順に示すと，下記のとおりである。ただし，俳句の数の中には，鑑賞文の中に引用された俳句も含めることにする。

R	角川書店	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	４６句
J	大修館	高等学校新国語Ⅰ・Ⅱ	４２句
B	東京書籍	国語Ⅰ・Ⅱ	３９句
N	右文書院	高等学校新国語Ⅰ・高等学校総合国語Ⅱ	３７句
O	右文書院	高等学校国語Ⅰ・高等学校総合国語Ⅱ	３７句
U	尚学図書	新選国語Ⅰ・Ⅱ	３６句
K	大修館	現代の国語Ⅰ・Ⅱ	３２句
G	三省堂	明解国語Ⅰ・Ⅱ	３１句
T	旺文社	高等学校新国語Ⅰ・Ⅱ	３１句

反対に，載せている近・現代俳句の数の少ないものとしては，Ｆの三省堂の「国語Ⅰ・Ⅱ」の12句，Ｇの三省堂の「明解国語Ⅰ・Ⅱ」の12句，Ｓの旺文社の「新国語Ⅰ・Ⅱ」の12句，Ｈの教育出版の「国語Ⅰ・Ⅱ」の13句などが目立つ。載せている近・現代俳句の比較的に少ない教科書を，その数の少ない順に示すと，下記のとおりである。

F	三省堂	国語Ⅰ・Ⅱ	１２句
G	三省堂	明解国語Ⅰ・Ⅱ	１２句
S	旺文社	新国語Ⅰ・Ⅱ	１２句
H	教育出版	国語Ⅰ・Ⅱ	１３句
W	尚学図書	新国語Ⅰ・Ⅱ	１４句
X	第一学習社	高等学校新編国語Ⅰ・Ⅱ	１４句

「国語Ⅰ」と「国語Ⅱ」とを合わせると，26種類の教科書には，延べにして670句の近・現代俳句が収められているから，教科書１種類あたりの平均収載句数は25,8句ということになる。

「国語Ⅰ」・「国語Ⅱ」の教科書の中には，近・現代俳句の単元に，俳句作品のほかに近・現代俳句に関する鑑賞文や解説を載せているものがある。現行の教科書では次のように７編の文章を載せ，その中の５編は俳句も引用している。

A	日本書籍	新版高等国語Ⅰ	大岡　信	折々のうた	８句
D	学校図書	高等学校新国語Ⅱ	飯田　龍太	野面積みの石垣	１句
G	三省堂	明解国語Ⅰ	編修委員会	俳句とは	なし
H	教育出版	国語Ⅰ	大岡　信	折々のうた	３句
O	右文書院	高等学校国語Ⅰ	馬場あき子	魅力ある歌と出会う	１首
J	大修館	高等学校新国語Ⅰ	編修委員会	季節と歳時記	なし
T	旺文社	高等学校国語Ⅱ	松本　恭子	俳句の魅力	１句

これまで見てきたように，26種類の教科書の中には，「国語Ⅰ」か「国語Ⅱ」のどちらか一方で近・現代俳句を扱うものもあり，また両方で扱うものもある。そのほかに，俳句を鑑賞した文章を載せるものもあって，俳句の扱い方は多様である。そのために，教科書で近・現代俳句について用いているページ数も４ページから15ページまで教科書によって差がある。各教科書が近・現代俳句にどの程度の比重を置いているかを知るおおよその目やすとして，近・現代俳句にさいているページ数を調べたものが次の〔表３〕である。ただし，この数字はごくおおまかなもので，厳密なものではない。教科書の多くはＡ５判であ

表３　近・現代俳句のために用いられたページ数

記号	発行所	書名	国語１	国語２	合計
A	日本書籍	新版高等国語Ⅰ・Ⅱ	5	4	9
B	東京書籍	国語Ⅰ・Ⅱ	2	6	8
C	東京書籍	新編国語Ⅰ・Ⅱ	3	3	6
D	学校図書	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	／	15	15
E	学校図書	基礎国語Ⅰ・Ⅱ	／	4	4
F	三省堂	国語Ⅰ・Ⅱ	4	／	4
G	三省堂	明解国語Ⅰ・Ⅱ	4	／	4
H	教育出版	国語Ⅰ・Ⅱ	6	／	6
I	大修館	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	3	3	6
J	大修館	高等学校新国語Ⅰ・Ⅱ	7	6	13
K	大修館	現代の国語Ⅰ・Ⅱ	3	3	6
L	明治書院	高校生の国語Ⅰ・Ⅱ	5	5	10
M	明治書院	精選新国語Ⅰ・Ⅱ	4	4	8
N	右文書院	高等学校新国語Ⅰ 高等学校総合国語Ⅱ	8	6	14
O	右文書院	高等学校国語Ⅰ 高等学校総合国語Ⅱ	8	6	14
P	筑摩書房	国語Ⅰ・Ⅱ	6	／	6

Q	筑摩書房	新編国語Ⅰ・Ⅱ	／	6	6
R	角川書店	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	8	5	13
S	旺文社	新国語Ⅰ・Ⅱ	／	4	4
T	旺文社	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	／	10	10
U	尚学図書	新選国語Ⅰ・Ⅱ	5	5	10
V	尚学図書	標準国語Ⅰ・Ⅱ	5	5	10
W	尚学図書	新国語Ⅰ・Ⅱ	／	6	6
X	第一学習社	高等学校新編国語Ⅰ・Ⅱ	／	4	4
Y	第一学習社	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	／	4	4
Z	第一学習社	高等学校新訂国語Ⅰ・Ⅱ	6	／	6

るが，中にはＢ５判のものも６種類ある。判型や活字の大きさによって１ページの字数も違う。また，教科書によっては，１ページに俳句を９句とかそれ以上を載せているのがある一方では，挿絵や写真を入れて，１ページに２句を載せているだけといった場合もあるからである。

なお，教科書の中には，Ｅの学校図書の「基礎国語Ⅰ」のように，「俳句の流れ」として，松尾芭蕉・与謝蕪村・小林一茶の古典俳句から近・現代俳句まで並べて，同じ単元で扱う教科書があり，鑑賞文の中には，古典俳句や短歌をいっしょに扱ったものもあるが，その場合は，近・現代俳句に関する部分のみのページ数を概算した。

３，どの俳人の句が採られているか

前の第２章では，それぞれの教科書が近・現代俳句を何句ほど教材として載せているか，そしてそのために約何ページをあてているか，ごくおおまかに眺めたが，この章では，もう少し詳しく，どの俳人のどの作品を近・現代俳句教材として採っているかを調べることにする。

その手はじめとして，最初に26種類のそれぞれの教科書について，近・現代俳句の単元の構成を眺めた上で，どの俳人の俳句を何句載せているか，また，作品のうちに，自由律や無季の俳句が何句含まれているかについて調べてみることにしたい。いくらか前の章の記述と重複する点があるが，それぞれの教科書の特色を明らかにするために，改めて記すことにする。

Ａ　日本書籍「新版高等国語Ⅰ・Ⅱ」

「国語Ⅰ」では，「12　近代の短歌と俳句」の単元で，「折々のうた」と題して大岡信の鑑賞文を載せる。これには星野立子・日野草城・中村草田男・村上鬼城・飯田蛇笏・橋本鶏二・石原八束・高浜虚子の８名の句を１句ずつ，計８句を掲載する。

「国語Ⅱ」では「革新と異端」と題して，水原秋桜子・山口誓子・加藤楸邨・尾崎放哉・種田山頭火の５名の俳句を３句ずつ，計15句を載せている。

尾崎放哉・種田山頭火の２名の俳句，計６句は自由律俳句である。

B　東京書籍「国語Ⅰ・Ⅱ」

「国語Ⅰ」では「七　詩歌」の単元で，「丘に立つ」と題して高浜虚子・河東碧梧桐・中村汀女の３名の句を３句ずつ，計９句を掲載する。

「国語Ⅱ」では「四　詩歌」の単元で，「白牡丹―俳句抄」と題して正岡子規・高浜虚子・飯田蛇笏・水原秋桜子・山口誓子・西東三鬼・川端茅舎・中村草田男・加藤楸邨・石田波郷の10名の俳句を３句ずつ，計30句を掲載する。

「丘に立つ」の中の河東碧梧桐の１句は自由律である。

C　東京書籍「新編国語Ⅰ・Ⅱ」

「国語Ⅰ」では「十　青春の歌」の単元で，「夏嵐」と題して正岡子規・高浜虚子・山口誓子・飯田蛇笏・中村草田男・加藤楸邨・中村汀女・種田山頭火・金子兜太の９名の俳句を１句ずつ，計９句を掲載する。

「国語Ⅱ」では「九　心のうた」の単元で，「青雲の志」と題して，水原秋桜子・川端茅舎・石田波郷・西東三鬼，飯田龍太・細見綾子の６名の俳句を２句ずつ，計12句を掲載する。自由律俳句は見当たらない。

D　学校図書「高等学校国語Ⅰ・Ⅱ」

近・現代俳句は「国語Ⅱ」だけに載せる。「11　俳句」の単元は，「野面積みの石垣」と題する飯田龍太の俳論と「近代の俳句」との二つの章よりなる。「野面積みの石垣」には高浜虚子の句を１句載せ，「近代の俳句」では，正岡子規・河東碧梧桐・高浜虚子・荻原井泉水・飯田蛇笏・水原秋桜子・山口誓子・中村草田男・加藤楸邨の９名の俳句を２句ずつ，計18句を載せる。

河東碧梧桐・荻原井泉水のそれぞれ１句，計２句が自由律俳句である。

E　学校図書「基礎国語Ⅰ・Ⅱ」

近・現代俳句は「国語Ⅱ」だけに載せる。この教科書では，俳句を扱うのに，「俳句の流れ」として，古典俳句と近・現代俳句とを分けないで，松尾芭蕉・与謝蕪村・小林一茶の句に続けて近・現代俳句を並べている。「花」には河東碧梧桐・高浜虚子・山口誓子の句を，「鳥」には尾崎放哉・杉田久女・水原秋桜子・加藤楸邨の句を，「虫」には村上鬼城・正岡子規・荻原井泉水・高野素十の句を，「野山」には高浜虚子・種田山頭火・飯田蛇笏の句を，「歳月」には村上鬼城・高浜虚子・中村草田男・石田波郷の句を，「幼子」には中村汀女・中村草田男・山口誓子・大野林火の句を，それぞれ１句ずつ，計22句掲載する。

尾崎放哉・荻原井泉水・種田山頭火のそれぞれ１句，計３句が自由律俳句である。

F　三省堂「国語Ⅰ・Ⅱ」

近・現代俳句は「国語Ⅰ」だけに載せる。「現代文編　三」,「俳句の世界」の章で，杉田久女・中村汀女・加藤楸邨・橋本多佳子・秋元不死男・沢木欣一・中村草田男・石田波郷・飯田龍太・山口誓子・種田山頭火・金子兜太の12名の句を１句ずつ，計12句を掲載する。種田山頭火の１句が自由律俳句である。

G　三省堂「明解国語Ⅰ・Ⅱ」

近・現代俳句は「国語Ⅰ」だけに載せる。「現代の文章　二」の「俳句鑑賞」の章に,「俳句とは」と題する，編修委員会の書き下ろしになる文章を載せ，その後に,「春ひとり」と題して，能村登四郎・正岡子規・星野立子・高浜虚子・水原秋桜子・藤田湘子・加藤楸邨・飯田蛇笏・石田波郷・中村草田男・山口誓子・種田山頭火の12名の句を１句ずつ，計12句を載せる。「学習の手引き」の〔三〕に「好きな俳句を選び，情景・心情・表現などに注意して，二百字程度の鑑賞文を書いてみよう。」というのがあり，その参考に供するためであろう。最初の能村登四郎の句には137字の鑑賞文が付けてある。
種田山頭火の１句が自由律俳句である。

H　教育出版「国語Ⅰ・Ⅱ」

近・現代俳句は「国語Ⅰ」だけに載せる。「５　詠む」の単元に，まず大岡信の「折々のうた」が載っている。ここには短歌の鑑賞文につづいて，高浜虚子・芥川龍之介・尾崎放哉の俳句，それぞれ１句ずつについての鑑賞文があり，その後に,「作品」として正岡子規・杉田久女・中村草田男・西東三鬼・加藤楸邨の５名の俳句を２句ずつ，計10句を掲載する。
「折々のうた」の中の尾崎放哉の１句が自由律俳句である。

I　大修館「高等学校国語Ⅰ・Ⅱ」

「国語Ⅰ」では「六　短歌と俳句」の単元に，高浜虚子・河東碧梧桐・飯田蛇笏・山口誓子・中村草田男・石田波郷・中村汀女の７名の俳句を２句ずつ，計14句を掲載する。
「国語Ⅱ」では「六　短歌と俳句」の単元に，正岡子規・村上鬼城・水原秋桜子・加藤楸邨・川端茅舎・飯田龍太・種田山頭火の７名の俳句を２句ずつ，計14句を掲載する。
「国語Ⅰ」の河東碧梧桐の１句・「国語Ⅱ」の種田山頭火の２句，計３句が自由律俳句である。

J　大修館「高等学校新国語Ⅰ・Ⅱ」

「国語Ⅰ」では「八　短歌・俳句」の単元に,「俳句」と題して，石田波郷・河東碧梧桐・水原秋桜子・川端茅舎・中村草田男・金子兜太・山口誓子・夏目漱石・飯田蛇笏・高浜

虚子・杉田久女・中村汀女・正岡子規・加藤秋邨・西東三鬼・久保田万太郎・荻原井泉水・種田山頭火・尾崎放哉の19名の句を１句ずつ，計19句を掲載し，その後に「季語・歳時記」と題する解説を付している。この文中に俳句は見られない。

「国語Ⅱ」では「八　短歌・俳句」の単元に，「俳句」と題して，正岡子規・高浜虚子・村上鬼城・水原秋桜子・山口誓子・石田波郷・中村草田男・加藤楸邨・種田山頭火の９名の俳句計18句を載せた後に，「青春の俳句」と題して，坪内稔典・橋本美代子・皆吉司・加古宗也・山畑禄郎の５名の句を１句ずつ，計５句を掲載する。

「国語Ⅰ」・「国語Ⅱ」に載せられた俳句の総計は42句となる。

「国語Ⅰ」の荻原井泉水・種田山頭火・尾崎放哉の計３句，「国語Ⅱ」の種田山頭火の２句，総計５句が自由律俳句である。

K　大修館「現代の国語Ⅰ・Ⅱ」

「国語Ⅰ」では「七　短歌・俳句」の単元に，「俳句」と題して，高浜虚子・飯田蛇笏・山口誓子・西東三鬼・中村草田男・石田波郷・中村汀女の７名の俳句を２句ずつ，計14句掲載した後に，尾崎放哉と種田山頭火の俳句を１句ずつ，計２句，総計16句を載せる。

「国語Ⅱ」では「七　短歌・俳句」の単元に，「俳句」と題して，正岡子規・河東碧梧桐・村上鬼城・杉田久女・川端茅舎・水原秋桜子・加藤楸邨・金子兜太の８名の俳句を２句ずつ，計16句を掲載する。

「国語Ⅰ」・「国語Ⅱ」の総計は32句となる。

「国語Ⅰ」の尾崎放哉・種田山頭火と，「国語Ⅱ」の河東碧梧桐の，それぞれ１句，計３句が自由律俳句である。

L　明治書院「高校生の国語Ⅰ・Ⅱ」

「国語Ⅰ」では「７　短歌と俳句」の単元に，「春の月」と題して，原石鼎・中村汀女・細見綾子・中村草田男・石田波郷・山口誓子・飯田蛇笏・川端茅舎・水原秋桜子・加藤楸邨・松本たかし・正岡子規・富安風生・杉田久女・高浜虚子の15名の俳句を１句ずつ，計15句を掲載する。

「国語Ⅱ」では，「７　短歌と俳句」の単元に，「新緑」と題して，富安風生・石田波郷・高野素十・大野林火・橋本多佳子・鷹羽狩行・山口誓子・高浜虚子・山口青邨・村上鬼城・水原秋桜子・日野草城・尾崎放哉・種田山頭火・高柳重信の15名の俳句を１句ずつ，計15句を掲載する。配列は春・夏・秋・冬・無季の順に３句ずつ並べている。

「国語Ⅱ」の尾崎放哉・種田山頭火・高柳重信の３名の句，計３句が自由律・無季俳句である。

M　明治書院「精選新国語Ⅰ・Ⅱ」

「国語Ⅰ」では「九　短歌と俳句」の単元に，「桐一葉」と題して，高浜虚子・飯田蛇笏・水原秋桜子・山口誓子・加藤楸邨の５名の俳句を３句ずつ，計15句を掲載する。

「国語Ⅱ」では「九　短歌と俳句」の単元に，「秋の航」と題して，河東碧梧桐・杉田久女・中村草田男・石田波郷・飯田龍太の５名の俳句を３句ずつ，計15句を掲載する。

「国語Ⅱ」の河東碧梧桐の２句が自由律俳句である。

N　右文書院「高等学校新国語Ⅰ」・「高等学校総合国語Ⅱ」

「高等学校新国語Ⅰ」では「六　短歌・俳句」の単元で，「俳句十六句」と題して，正岡子規・高浜虚子・水原秋桜子・山口誓子・中村草田男・加藤楸邨・中村汀女・飯田龍太の８名の俳句を２句ずつ，計16句を掲載する。

この教科書は題名に「高等学校新国語Ⅰ」とはあるが，近・現代俳句の教材に関するかぎり，掲載する俳句・脚注・学習の課題にわたって，Oの「高等学校国語Ⅰ」とかわりがない。右文書院の高等学校用の国語教科書は，先にも触れたように，「国語Ⅰ」の教科書は，「高等学校新国語Ⅰ」と「高等学校国語Ⅰ」との２種類発行しているが，「国語Ⅱ」の教科書は「高等学校総合国語Ⅱ」の１種類しかなくて，「高等学校新国語Ⅰ」も「高等学校国語Ⅰ」も共に，次は「高等学校総合国語Ⅱ」を使うことになっているので，ここで「高等学校総合国語Ⅱ」について記すと，「七　短歌・俳句」の単元で，「春寒し」と題して，河東碧梧桐・村上鬼城・飯田蛇笏・川端茅舎・高野素十・石田波郷・種田山頭火の７名の俳句を３句ずつ，計21句を掲載している。

「国語Ⅱ」の種田山頭火の３句は自由律俳句である。

O　右文書院「高等学校国語Ⅰ」・「高等学校総合国語Ⅱ」

この教科書は近・現代俳句の教材に関するかぎり，掲載する俳句・脚注・学習の課題にわたって，Nの「高等学校新国語Ⅰ」とかわりが認められないので，記述を省略する。

この後で学習する「高等学校総合国語Ⅱ」についても，上のNのところに記したので，記述を省略する。

P　筑摩書房「国語Ⅰ・Ⅱ」

近・現代俳句は「国語Ⅰ」だけに載せる。「現代文〔二〕」の「俳句　柿くへば」の章で，正岡子規・高浜虚子・水原秋桜子・山口誓子・中村草田男・石田波郷・加藤楸邨・種田山頭火の８名の俳句を３句ずつ，計24句を掲載する。

種田山頭火の３句が自由律俳句である。

Q　筑摩書房「新編国語Ⅰ・Ⅱ」

近・現代俳句は「国語Ⅱ」だけに載せる。「現代文〔二〕」の「俳句　柿くへば」の章で，正岡子規・高浜虚子・山口誓子・中村草田男・加藤楸邨・種田山頭火のの6名の俳句を4句ずつ，計24句を掲載する。

種田山頭火の4句が自由律俳句である。

R　角川書店「高等学校国語Ⅰ・Ⅱ」

「国語Ⅰ」では「九　短歌と俳句」の単元に，「立春の譜」と題して，渡辺水巴・尾崎放哉・中村汀女・三橋鷹女・野沢節子・水原秋桜子・種田山頭火・藤田湘子・中村草田男・飯田龍太・森澄雄・石田波郷・橋本多佳子・木下夕爾・川端茅舎・室生犀星・山口誓子・加藤楸邨・飯田蛇笏・久保田万太郎・西東三鬼・前田普羅・三橋敏雄・富沢赤黄男・金子兜太の25名の俳句を1句ずつ，計25句掲載する。配列は春・夏・秋・冬・新年・無季の順に数句ずつ並べている。

「国語Ⅱ」では「八　短歌と俳句」の単元に，「大空に」と題して，高浜虚子・飯田蛇笏・水原秋桜子・山口誓子・川端茅舎・中村草田男・加藤秋邨の7名の俳句を3句ずつ，計21句を掲載する。

俳句の数は「国語Ⅰ」に25句，「国語Ⅱ」に21句，計46句である。

「国語Ⅰ」の尾崎放哉の1句が自由律，三橋敏雄・梅沢赤黄男・金子兜太の計3句が無季の俳句である。「国語Ⅱ」に自由律の句は見当たらない。

S　旺文社「新国語Ⅰ・Ⅱ」

近・現代俳句は「国語Ⅱ」だけに載せる。〔3〕のⅡの「俳句」の章に，「青春」と題して日野草城・杉田久女・西島麦南・山口誓子の俳句を，「愛情」と題して中村汀女・大野林火・正岡子規・石田波郷の俳句を，「追想」と題して水原秋桜子・高浜虚子・夏目漱石・中村草田男の俳句を1句ずつ，計12句を掲載する。

自由律や無季の俳句は見当たらない。

この「国語Ⅱ」には，この「俳句」の章の前に，評論の教材として，佐藤和夫の「蛙は一匹か数匹か」という，松尾芭蕉の「古池や蛙飛びこむ水の音」の句についての文章が載せられているが，評論の教材であるし，近・現代俳句は扱っていないので，この調査の対象には入れないことにする。

T　旺文社「高等学校国語Ⅰ・Ⅱ」

近・現代短歌は「国語Ⅱ」だけに載せる。「現代文発展編（二）」の「5．俳句」の単元で，「俳句の魅力」と題する松本恭子の文章をを載せた後に，「俳句」と題して作品を載せる。

「春」には石田波郷・久保田万太郎・村上鬼城・杉田久女・水原秋桜子の句を，「夏」には加藤楸邨・種田山頭火・高浜虚子・川端茅舎・河東碧梧桐の句を，「秋」には正岡子規・中村草田男・金子兜太・夏目漱石・中村汀女の句を，「冬」には飯田蛇笏・山口誓子・松本たかし・飯田龍太・前田普羅の句を１句ずつ，計20句を掲載する。その後に「子規と虚子」の見出しで正岡子規と高浜虚子の句をそれぞれ５句ずつ，計10句載せている。

松本恭子の文中に彼女の句が１句引かれている。春夏秋冬の句が20句，子規と虚子の句が計10句あって，計31句ある。

自由律や無季の俳句は見当たらない。

U　尚学図書「新選国語Ⅰ・Ⅱ」

「国語Ⅰ」では「六　詩歌」の単元に，「近代の俳句」と題して，中村汀女・中村草田男・水原秋桜子・山口誓子・夏目漱石・正岡子規の６名の俳句を３句ずつ，計18句を掲載する。

「国語Ⅱ」では「六　詩歌」の単元に，「近代の俳句」と題して，加藤楸邨・飯田蛇笏・杉田久女・種田山頭火・村上鬼城・高浜虚子の６名の俳句を３句ずつ，計18句を掲載する。

この教科書は俳句の配列が逆年順になっている。

種田山頭火の３句が自由律俳句である。

V　尚学図書「標準国語Ⅰ・Ⅱ」

「国語Ⅰ」では「短歌と俳句」の単元に，「近代の俳句」と題して，中村草田男・水原秋桜子・山口誓子・高浜虚子・正岡子規の５名の俳句を３句ずつ，計15句をを載せる。

「国語Ⅱ」では「短歌と俳句」の単元に，「近代の俳句」と題して，飯田龍太・加藤楸邨・橋本多佳子・川端茅舎・村上鬼城の俳句を３句ずつ，計15句を掲載する。

この教科書は俳句の配列が逆年順になっている。

自由律や無季の俳句は見当たらない。

W　尚学図書「新国語Ⅰ・Ⅱ」

近・現代俳句は「国語Ⅱ」だけに載せる。「近代の俳句」と題して，加藤楸邨・中村汀女・中村草田男・水原秋桜子・山口誓子・高浜虚子・正岡子規の俳句を２句ずつ，計14句掲載する。

この教科書は俳句の配列が逆年順になっている。

自由律や無季の俳句は見当たらない。

X　第一学習社「高等学校新編国語Ⅰ・Ⅱ」

近・現代俳句は「国語Ⅱ」だけに載せる。「俳句の世界」の単元に，「手毬歌」と題して，高浜虚子・種田山頭火・中村草田男・山口誓子・橋本多佳子・三橋鷹女・高柳重信の７名の句を２句ずつ，計14句を掲載する。

種田山頭火の２句は自由律，高柳重信の１句は無季である。

Y　第一学習社「高等学校国語Ⅰ・Ⅱ」

近・現代俳句は「国語Ⅱ」だけに載せる。「俳句」の単元に，「こころの帆」と題して，正岡子規・高浜虚子・村上鬼城・水原秋桜子・中村草田男・加藤楸邨・山口誓子の７名の句を３句ずつ，計21句を掲載する。

自由律や無季の俳句は見当たらない。

Z　第一学習社「高等学校新訂国語Ⅰ・Ⅱ」

近・現代俳句は「国語Ⅱ」だけに載せる。教科書の題名に「新訂」とはあるが，この近・現代俳句の教材に関するかぎり，掲載する俳句・脚注・学習の課題にわたって，「高等学校国語Ⅰ」とすべて同じであるので，記述を省略する。

以上，26種類のそれぞれの教科書について，近・現代俳句の単元の構成について概観し，俳人別に収録された俳句の数，鑑賞文などを載せている場合はその文章中に扱われている俳句の作者について調べ，俳句の中に自由律や無季の俳句が含まれているか否かなども調べ，それぞれの教科書の特色について調査した。この調査をもとにして，各教科書がどの俳人の俳句を何句，教材として掲載しているかを示したものが〔表４〕である。

この「表４〕からわかるように，俳人ごとに，俳句が掲載された回数を集計してみた結果，その回数の最も多いのは，高浜虚子で，延べ65回となっており，主として昭和期に活躍した比較的に若い俳人の作品のみにしぼったＦの三省堂の「国語」には虚子の作品は載っていないが，それを除いたすべての教科書に教材として採られている。それにつづくのが山口誓子（58回），中村草田男（57回），加藤楸邨（55回）といった俳人で，その中の中村草田男の場合は26種類のすべての教科書に教材として採られており，山口誓子の場合はＨの教育出版の「国語」には載っていないが，それを除いたすべての教科書に教材として採られていることがわかる。

俳句が３回以上，教科書に載った俳人は，全体で28名にのぼるが，前回（1986年）の調査のときには顔を出していなかった俳人たちが見えている。その俳人を，教科書に教材として採られた回数が多い順に示すと，尾崎放哉・高野素十・夏目漱石・荻原井泉水・大野林火・久保田万太郎・高柳重信・細見綾子・日野草城・三橋鷹女の10名である。その中には，大野

表4　各教科書は誰の作品を何句載せているか

記号	発行所名	教科書名　＼　歌人名	高浜虚子	山口誓子	中村草田男	加藤楸邨	水原秋桜子	正岡子規	種田山頭火	飯田蛇笏	石田波郷	村上鬼城	川端茅舎	中村汀女	河東碧梧桐	飯田龍太	杉田久女	西東三鬼	尾崎放哉	高野素十	橋本多佳子	金子兜太	夏目漱石	荻原井泉水	大野林火	久保田万太郎	高柳重信	細見綾子	日野草城	三橋鷹女
A	日本書籍	新版高等国語Ⅰ・Ⅱ	1	3	1	3	3		3	1		1							3										1	
B	東京書籍	国語Ⅰ・Ⅱ	6	3	3	3	3	3		3	3		3	3	3			3												
C	東京書籍	新編国語Ⅰ・Ⅱ	1	1	1	1	2	1	1	1	2		2	1		2		2				1						2		
D	学校図書	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	3	2	2	2	2	2		2					2									2						
E	学校図書	基礎国語Ⅰ・Ⅱ	3	2	2	2	1	1	1	1	1	2		1	1		1		1	1				1	1					
F	三省堂	国語Ⅰ・Ⅱ		1	1	1			1		1			1		1	1				1	1								
G	三省堂	明解国語Ⅰ・Ⅱ	1	1	1	1	1	1	1	1	1																			
H	教育出版	国語Ⅰ・Ⅱ	1		2	2		2									2	2	1											
I	大修館	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2														
J	大修館	高等学校新国語Ⅰ・Ⅱ	3	3	3	3	3	3	3	1	3	2	1	1	1		1	1	1			1	1	1		1				
K	大修館	現代の国語Ⅰ・Ⅱ	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2		2	2	1			2								
L	明治書院	高校生の国語Ⅰ・Ⅱ	2	2	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1			1		1	1	1				1		1	1	1	
M	明治書院	精選新国語Ⅰ・Ⅱ	3	3	3	3	3			3	3				3	3	3													
N	右文書院	高等学校新国語Ⅰ・総合国語Ⅱ	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2	3	2				3										
O	右文書院	高等学校国語Ⅰ・総合国語Ⅱ	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2	3	2				3										
P	筑摩書房	国語Ⅰ・Ⅱ	3	3	3	3	3	3	3		3																			
Q	筑摩書房	新編国語Ⅰ・Ⅱ	4	4	4	4		4	4																					
R	角川書店	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	3	4	4	4	4		1	4	1		4	1		1		1	1		1	1				1				1
S	旺文社	新国語Ⅰ・Ⅱ	1	1	1		1	1			1			1			1						1		1				1	
T	旺文社	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	6	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1					1	1			1				
U	尚学図書	新選国語Ⅰ・Ⅱ	3	3	3	3	3	3	3	3		3		3			3						3							
V	尚学図書	標準国語Ⅰ・Ⅱ	3	3	3	3	3	3				3	3			3					3									
W	尚学図書	新国語Ⅰ・Ⅱ	2	2	2	2	2	2						2																
X	第一学習社	高等学校新編国語Ⅰ・Ⅱ	2	2	2				2												2						2			2
Y	第一学習社	高等学校国語Ⅰ・Ⅱ	3	3	3	3	3	3				3																		
Z	第一学習社	高等学校新訂国語Ⅰ・Ⅱ	3	3	3	3	3	3				3																		
合計			65	58	57	55	51	50	34	32	32	29	25	24	21	17	16	11	9	8	8	7	6	4	3	3	3	3	3	3

記号	星野立子	藤田湘子	松本たかし	富安風生	前田普羅	橋本鶏二	石原八束	秋元不死男	沢木欣一	能村登四郎	芥川龍之介	坪内稔典	橋本美代子	皆吉司	加古宗也	山畑禄郎	原石鼎	鷹羽狩行	山口青邨	渡辺水巴	野沢節子	森澄雄	木下夕爾	室生犀星	三橋敏雄	富沢赤黄男	西島麦南	松本恭子	合計
A	1					1	1																						23
B																													39
C																													21
D																													19
E																													22
F								1	1																				12
G	1	1								1																			12
H											1																		13
I																													28
J												1	1	1	1	1													42
K																													32
L			1	2													1	1	1										30
M																													30
N																													37
O																													37
P																													24
Q																													24
R		1			1															1	1	1	1	1	1	1			46
S																											1		12
T			1		1																							1	31
U																													36
V																													30
W																													14
X																													14
Y																													21
Z																													21
合計	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	670

林火・久保田万太郎・高柳重信・細見綾子・三橋鷹女といった，戦後に活躍をするようになった俳人たちが見える。

そのほかに気づくこととしては，前回の調査では，新傾向，自由律，無季の俳人としては，河東碧梧桐と種田山頭火の２名しか見えなかったのに対して，今回の調査では，新しく尾崎放哉・荻原井泉水・高柳重信・三橋敏雄・富沢赤黄男・金子兜太の６名が加わっていることがある。

これらの現象の意味することがらについては，第５章の「おわりに」のところで，改めて考察することにしたい。

４，どんな句が採られているか

次に，今度は，俳人別に，どの俳句がどの教科書に教材として載せられているかについて調べて，その結果を表にしてみると，〔表５〕のようになる。この表からは，ある俳句がどの教科書に教材として掲載されているかを知ることができると同時に，その句が教科書に延べにして何回とられているかもわかり，その俳句に対するある程度の評価を知ることができる。

この表における俳句の配列は，俳句が教科書に掲載された延べの回数の多い順とした。掲載された教科書の名は 264・265 ページの〔表１〕の「『国語Ⅰ』・『国語Ⅱ』教科書一覧」の「教科書の略称」の欄に示した漢字２字よりなる略称によって示し，「国語Ⅰ」には１，「国語Ⅱ」には２を，教科書の略称の後に添えた。

俳句の表記には，教科書によって，漢字と仮名の使い分け，「缶」と「罐」などの漢字の字体の新旧，送り仮名の送り方，振りがなの有無など，いろいろと違いが見られる。たとえば，多くの教科書は，振りがなを歴史的仮名づかいで振っているが，中には現代仮名づかいで振っている教科書も見られるし，また，山口誓子の「かりかりと蟷螂蜂の兒を食む」の句の「蟷螂」を，多くの教科書は音読して，歴史的仮名づかいで「たうらう」と振りがなを振っているのに対して，訓読して「かまきり」と振っているというような場合も見られる。このように，俳句の表記は教科書によって一様ではないが，この表では，「掲載教科書」欄に示した最初の教科書，すなわち一番左に記した教科書の表記に従うことにする。

表５　作者別掲載俳句一覧表

高浜虚子（65回・16句）

番号	俳　　句	掲　載　教　科　書	回数
1	白牡丹といふといへども紅（こう）ほのか	東書2 東新1 学図2 学基2 三明1 大修1 大現1 明精1 筑摩1 筑新2 角川2 旺文2 尚選2 尚標1 尚新2	15
2	去年（こぞ）今年（こんとし）貫く棒の如きもの	日書1 学基2 明精1 筑新2 一新2 第一2 一訂2	7
3	遠山に日の当りたる枯野かな	東書1 学基2 大修1 大新2 右新1 右文1 尚選2	7

4	桐一葉日あたりながら落ちにけり	東書2 大新1 大現1 明精1 筑摩1 筑新2 尚標1	7
5	流れゆく大根の葉の早さかな	東書2 大新2 筑新2 旺文2 尚選2	5
6	手毬唄かなしきことをうつくしく	明治1 尚新2 一新2 第一2 一訂2	5
7	金亀子 擲つ闇の深さかな	東書1 学図2 教出1 尚標1	4
8	茎右往左往菓子器のさくらんぼ	右新1 右文1 旺文2	3
9	山国の蝶を荒しと思はずや	旺文2 第一2 一訂2	3
10	春風や闘志をいだきて丘に立つ	東書1 筑摩1	2
11	彼一語我一語秋深みかも	明治2 角川2	2
12	子規逝くや十七日の月明に	学図2	1
13	大空に又わき出でし小鳥かな	角川2	1
14	虹消えて忽ち君の無き如し	旺新2	1
15	帚木に影といふものありにけり	旺新2	1
16	木曽川の今こそ光れ渡り鳥	旺文2	1

山口誓子（58回・18句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	つきぬけて天上の紺曼珠沙華	日書2 東新1 学図2 学基2 大新2 明治2 筑新2 角川2 尚標1 第一2 一訂2	11
2	夏草に汽缶車の車輪来て止まる	東書2 大修1 大新1 大限1 右新1 右文1 筑摩1 筑新2 尚選1	9
3	海に出て木枯帰るところなし	日書2 東書2 三省1 尚選1 尚標1 第一2 一訂2	7
4	かりかりと蟷螂蜂の兒を食む	東書2 大修1 明精1 筑新2 角川2	5
5	ピストルがプールの硬き面にひびき	大現1 尚選1 尚標1 尚新2 一新2	5
6	炎天の遠き帆やわがこころの帆	明治1 明精1 第一2 一訂2	4
7	流氷や宗谷の門波荒れやまず	学図2 大新2 筑摩1 尚新2	4
8	蛍獲て少年の指みどりなり	右新1 右文1 角川2	3
9	向日葵に天よりも地の夕焼くる	日書2	1
10	蟷螂の眼の中までも枯れ尽す	三明1	1
11	匙なめて童たのしも夏氷	学基2	1
12	七月の青嶺まぢかく溶鉱炉	明精1	1
13	手花火に妹がかひなの照らさるる	筑摩1	1
14	学問のさびしさに堪へ炭をつぐ	筑新2	1
15	鷺とんで白を彩とす冬の海	角川1	1
16	ラグビーの馘えしジャケツを着つつ馴れ	旺新2	1
17	ラグビーのジャケツちぎれて闘へる	旺文2	1
18	一湾をたあんと開く猟銃音	一新2	1

中村草田男（57回・16句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	万緑の中や吾子の歯生え初むる	日書1 東書2 学基2 教出1 大修1 大新2 大現2 明治1 明精2 筑摩1 筑新2 角川2 尚選1 尚標1 尚新2 一新2 第一2 一訂2	18
2	降る雪や明治は遠くなりにけり	東書2 学基2 筑摩1 筑新2 旺新2 尚選1 尚標1 尚新2	8
3	玖瑰や今も沖には未来あり	東新1 角川1 尚選1 尚標1 第一2 一訂2	6
4	秋の航一大紺円盤の中	学図2 教出1 大新2 大現1 明精2	5
5	冬の水一枝の影も欺かず	三明1 右新1 右文1 第一2 一訂2	5
6	葡萄食ふ一語一語の如くにて	右新1 右文1 角川2 旺文2	4
7	空は太初の青さ妻より林檎うく	三省1 明精2	2
8	町空のつばくらめのみ新しや	東書2	1
9	焼跡に遺る三和土や手毬つく	筑新2	1
10	校塔に鳩多き日や卒業す	学図2	1
11	勇気こそ地の塩なれや梅真白	大修1	1
12	筍の鋒高し星生まる	大新1	1
13	春の闇幼きおそれふと復る	筑摩1	1
14	乙鳥はまぶしき鳥となりにけり	筑新2	1
15	すつくと狐すつくと狐日に並ぶ	角川2	1
16	母の日や大きな星がやや下位に	一新2	1

加藤楸邨（55回・14句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	鰯雲人に告ぐべきことならず	東書2 三明1 大修2 明精1 右新1 右文1 尚選2 尚標2 第一2 一訂2	10
2	寒雷やびりりびりりと真夜の玻璃	大新2 明精1 右新1 右文1 筑摩1 筑新2 尚選2 尚標2 尚新2	9
3	雉子の眸のかうかうとして売られけり	東書2 東新1 学基2 大修2 大新2 大現2 筑新2	7
4	木の葉ふりやまずいそぐないそぐなよ	教出1 明治1 尚選2 尚標2 第一2 一訂2	6
5	隠岐やいま木の芽をかこむ怒濤かな	日書2 東書2 大現2 第一2 一訂2	5
6	鮟鱇の骨まで凍ててぶちきらる	学図2 教出1 大新1 筑摩1 筑新2	5
7	火の奥に牡丹崩るるさまを見つ	日書2 筑摩1 筑新2 角川2 旺文2	5
8	さえざえと雪後の天の怒濤かな	明精1 角川2	2
9	梨食ふと目鼻片づけこの乙女	日書2	1
10	寄りあひて馬はしぐれにめひらける	学図2	1
11	草蓬あまりにかろく骨置かる	三省1	1
12	吹越に大きな耳の兎かな	角川1	1

13	原爆図中口あくわれも口あく寒	角川2	1
14	しづかなる力満ちゆき蝮蛇とぶ	尚新2	1

水原秋桜子（51回・16句）

番号	俳　　句	掲　載　教　科　書	回数
1	滝落ちて群青世界とどろけり	日書2 東新2 大現2 右新1 右文1 角川1 尚標1 尚新2 第一2 一訂2	10
2	啄木鳥や落葉をいそぐ牧の木々	学基2 大修2 大新2 大現2 明治1 明精1 右新1 右文1 筑摩1	9
3	冬菊のまとふはおのがひかりのみ	東書2 明治2 尚標1 第一2 一訂2	5
4	コスモスを離れし蝶に渓深し	東書2 筑摩1 角川2 尚選1	4
5	葛飾や桃の籬も水田べり	大新1 尚選1 尚標1 尚新2	4
6	麦秋の中なるが悲し聖廃墟	日書2 東新2 三明1	3
7	高嶺星蚕飼の村は寝しづまり	学図2 第一2 一訂2	3
8	梨咲くと葛飾の野はとのぐもり	東書2 明精1	2
9	蟇ないて唐招提寺春いづこ	大修2 大新2	2
10	春惜しむおんずがたこそとこしなへ	明精1 旺文2	2
11	来し方や馬酔木咲く野の日のひかり	筑摩1 旺新2	2
12	青春の過ぎにしこころ苺喰ふ	日書2	1
13	わがいのち菊にむかひてしづかなる	学図2	1
14	寒鯉はしづかなるかな鯖を垂れ	角川2	1
15	野の虹と春田の虹と空に合ふ	角川2	1
16	しぐれふるみちのくに大き仏あり	尚選1	1

正岡子規（50回・12句）

番号	俳　　句	掲　載　教　科　書	回数
1	いくたびも雪の深さをたづねけり	東書2 学図2 教出1 大新1 大現2 明治1 右新1 右文1 筑摩1 筑新2 尚標1 尚新2 第一2 一訂2	14
2	柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺	大修2 右新1 右文1 筑摩1 筑新2 旺文2 尚選1 尚標1 尚新2	9
3	糸瓜咲いて痰のつまりし仏かな	東書2 教出1 大新2 筑摩1 旺文2 尚選1 尚標1	7
4	赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり	東書2 学基2 大新2 大現2	4
5	痰一斗糸瓜の水も間に合はず	筑新2 旺文2 第一2 一訂2	4
6	若鮎の二手になりて上りけり	三明1 大修2 尚選1	3
7	夏嵐机上の白紙飛び尽す	東新1 学図2	2
8	鶏頭の十四五本もありぬべし	筑新2 旺文2	2
9	三千の俳句を閲し柿二つ	第一2 一訂2	2
10	行く我にとどまる汝に秋二つ	旺新2	1
11	雪残る頂一つ国境	旺文2	1
12	をととひのへちまの水も取らざりき	旺文2	1

種田山頭火（34回・11句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	分け入つても分け入つても青い山	日書2 東新1 学基2 大修2 大新1 大現1 明治2 右総2 右総2 角川1 旺文2 尚選2	12
2	うしろすがたのしぐれてゆくか	日書2 三省1 大修2 右総2 右総2 筑摩1 筑新2 尚選2	8
3	鉄鉢の中へも霰	三明1 筑新2 尚選2	3
4	どうしようもないわたしが歩いてゐる	大新2 右総2 角川1	3
5	砂丘にうづくまりけふも佐渡が見えない	筑摩1 筑新2	2
6	笠へぽつとり椿だつた	日書2	1
7	窓あけて窓いつぱいの春	大新2	1
8	てふてふひらひらいらかをこえた	筑摩2	1
9	行きくれてなんとここらの水のうまさは	筑新2	1
10	しみじみ食べる飯ばかりの飯である	大新2	1
11	うどん供へて，母よ，わたくしもいただきまする	大新2	1

飯田蛇笏（32回・11句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	芋の露連山影を正しうす	東書2 学図2 学基2 三明1 大修1 大新1 大現1 明精1 右総2 右総2 角川2 尚選2	12
2	くろがねの秋の風鈴鳴りにけり	日書1 東書2 学図2 右総2 右総2 尚選2	6
3	雪山を匍ひまはりゐる冴かな	東書2 大修1 明精1	3
4	をりとりてはらりとおもきすすきかな	東新1 大現1 明治1	3
5	極寒のちりもとどめず巌ふすま	右総2 右総2	2
6	つぶらなる眼に人をみる蜥蜴かな	明精1	1
7	寒の月白炎曳いて山をいづ	角川1	1
8	うらうらと旭いづる霜の林かな	角川2	1
9	死火山の膚つめたくて草いちご	角川2	1
10	冬滝のきけば相つぐこだまかな	旺文2	1
11	たましひのたとへば秋のほたるかな	尚選2	1

石田波郷（32回・18句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	バスを待ち大路の春をうたがはず	東新2 大修1 大新1 大現1 右総2 右総2	6
2	プラタナス夜もみどりなる夏は来ぬ	東書2 東新2 明治1 明精2	4
3	雁や残るものみな美しき	三明1 筑摩1 明精2	3

4	吹きおこる秋風鶴をあゆましむ	東書2 角川1	2
5	朱欒割くや歓喜の如き色と香と	大修1 大現1	2
6	槙の空秋押移りゐたりけり	右総2 右総2	2
7	一点の蠅亡骸の裾に侍す	右総2 右総2	2
8	日の出前五月のポスト町に町に	東書2	1
9	朝顔の紺のかなたの月日かな	学基2	1
10	蟋蟀に覚めしや胸の手をほどく	三省1	1
11	はこべらや焦土のいろの雀ども	大新2	1
12	鰯雲ひろがりひろがり創痛む	大新2	1
13	春雪三日祭りの如く過ぎにけり	明治2	1
14	あえかなる薔薇撰りをれば春の雷	明精2	1
15	雷落ちて火柱見せよ胸の上	筑摩1	1
16	金の芒はるかなる母の祷りをり	筑摩1	1
17	露寒や兄妹さらに黙り合ふ	旺新2	1
18	初蝶や吾三十の袖袂	旺文2	1

村上鬼城（29回・12句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	冬蜂の死にどころなく歩きけり	学基2 大修2 大現2 明治2 第一2 一訂2	6
2	生きかはり死にかはりして打つ田かな	学基2 大新2 右総2 右総2	4
3	痩馬のあはれ機嫌や秋高し	大修2 大新2 右総2 右総2	4
4	鷹のつらきびしく老いて哀れなり	尚選2 第一2 一訂2	3
5	八重桜地上に画く大伽藍	右総2 右総2	2
6	花散るや耳ふつて馬のおとなしき	旺文2 尚選2	2
7	闘鶏の眼つむれて飼はれけり	第一2 一訂2	2
8	小春日の石を噛み居る赤蜻蛉	尚選2 尚標2	2
9	馬に乗って河童遊ぶや夏の川	日書1	1
10	早乙女や泥手にはさむ額髪	大現2	1
11	親よりも白き羊や今朝の秋	尚標2	1
12	街道をきちきちと飛ぶ蝗蝦かな	尚標2	1

川端茅舎（25回・10句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	金剛の露ひとつぶや石の上	東新2 大修2 大現2 明治1 角川2 尚標2	6
2	ぜんまいののの字ばかりの寂光土	東書2 大現2 右総2 右総2 尚標2	5
3	ひらひらと月光降りぬ貝割菜	東書2 大修2 右総2 右総2 角川2	5
4	月光に深雪の創のかくれなし	右総2 右総2 角川2	3

5	とび下りて弾みやまずよ寒雀	東書2	1
6	朴の花猶青雲の志	東新2	1
7	蜂の尻ふわふわと針をさめけり	大新1	1
8	しんしんと雪降る空に鳶の笛	角川2	1
9	朴散華即ち知れぬ行方かな	旺文2	1
10	約束の寒の十筆を煮て下さい	尚標2	1

中村汀女（24回・9句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	外にも出よふるるばかりに春の月	大現1 明治1 右新1 右文1 角川1 尚新2	6
2	咳の子のなぞなぞあそびきりもなや	東書1 東新1 大修1 大現1 尚選1	5
3	とどまればあたりにふゆる蜻蛉かな	東書1 大修1 尚選1	3
4	あはれ子の夜寒の床の引けば寄る	学基2 旺文2 尚新2	3
5	地階の灯春の雪降る樹のもとに	東書1 尚選1	2
6	春宵や駅の時計の五分経ち	右新1 右文1	2
7	蝶白し目かくしの鬼あはれめば	三省1	1
8	秋雨の瓦斯が飛びつく燐寸かな	大新1	1
9	春風や右に左に子をかばひ	旺新2	1

河東碧梧桐（21回・10句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	赤い椿白い椿と落ちにけり	東書1 学基2 大新1 大現2 明精2	5
2	曳かれる牛が辻でずつと見廻した秋空だ	東書1 大修1 大現2 明精2	4
3	空をはさむ蟹死にをるや雲の峰	東書1 旺文2	2
4	春寒し水田の上の根なし雲	右総2 右総2	2
5	今朝の秋千里の馬を相しけり	右総2 右総2	2
6	鮎落ちぬ草庵の硯凹みけり	右総2 右総2	2
7	笛方のかくれ貌なり薪能	学図2	1
8	軒屋も過ぎ落ち葉する風のままに行く	学図2	1
9	ひたひたと春の潮打つ鳥居かな	大修1	1
10	思はずもヒヨコ生まれぬ冬薔薇	明精2	1

飯田龍太（17回・11句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	かたつむり甲斐も信濃も雨のなか	東新2 大修2 右新1 右文1 角川1	5
2	黒揚羽九月の樹間透きとほり	東新2 大修2	2

3	草木瓜の花山国の緋を極め	右新1 右文1	2
4	天つつぬけに木犀と豚にほふ	三省1	1
5	炎天の巌の裸子やはらかし	明精2	1
6	大寒の一戸もかくれなき故郷	明精2	1
7	白梅のあと紅梅の深空あり	明精2	1
8	父笑ふうしろ西日の冬景色	旺文2	1
9	春の鳶寄りわかれては高みつつ	尚標2	1
10	渓川の身を揺りて夏来たるなり	尚標2	1
11	父母の亡き裏口開いて枯木山	尚標2	1

杉山久女（16回・10句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	谺して山ほととぎすほしいまま	学基2 教出1 大現2 明精2 尚選2	5
2	花衣ぬぐやまつはる紐いろいろ	教出1 大現2	2
3	紫陽花に秋冷いたる信濃かな	明精2 尚選2	2
4	吊革に春夜の腕しなはせて	三省1	1
5	朝顔や濁り初めたる市の空	大新1	1
6	書初やうるしの如き大硯	明治1	1
7	梅檀の花散る那覇に入学す	明精2	1
8	常夏の碧き潮あび吾がそだつ	旺新2	1
9	風に落ち楊貴妃桜房のまま	旺文2	1
10	虫鳴くや帯に手さして倚り柱	尚選2	1

西東三鬼（11回・6句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	水枕ガバリと寒い冬がある	東書2 東新2 教出1 大新1 大現1	5
2	算術の少年しのび泣けり夏	東書2 大現1	2
3	倒れたる案山子の顔の上に天	東書2	1
4	青高原わが変身の裸馬逃げよ	東新2	1
5	豊年や松を輪切りにして戻る	教出1	1
6	一波に消ゆる書初め砂浜に	角川1	1

尾崎放哉（9回・6句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	咳をしても一人	日書2 教出1 大新1 大現1	4
2	うそをついたやうな昼の月がある	日書1	1
3	入れものが無い両手で受ける	日書1	1

4	寝そべつて書いて居る手紙を鶏に覗かれる	学基2	1
5	足のうら洗へば白くなる	明治2	1
6	一日物云はず蝶の影さす	角川1	1

高野素十（8回・3句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	ひつぱれる糸まつすぐや甲虫	学基2 右総2 右総2	3
2	方丈の大庇より春の蝶	明治2 右総2 右総2	3
3	街路樹の夜も落葉をいそぐなり	右総2 右総2	2

橋本多佳子（8回・4句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	蛍籠昏ければ揺り炎えたたす	三省1 明治2 尚標2	3
2	星空へ店より林檎あふれをり	角川1 尚標2	2
3	乳母車夏の怒濤によこむきに	尚標2 一新2	2
4	月一輪凍湖一輪光りあふ	一新2	1

金子兜太（7回・5句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	果樹園がシヤツ一枚の俺の孤島	東新1 大現2	2
2	彎曲し火傷し爆心地のマラソン	大新1 大現2	2
3	滑り台に少年現われ塔と並ぶ	三省1	1
4	銀行員等朝より蛍光す烏賊のごとく	角川1	1
5	秋川の音の彼方に父母います	旺文2	1

夏目漱石（6回・5句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	有る程の菊抛げ入れよ棺の中	旺新2 旺文2	2
2	叩かれて昼の蚊を吐く木魚哉	大新1	1
3	ふるひ寄せて白魚崩れん許りなり	尚選1	1
4	梅の奥に誰やら住んで幽かな灯	尚選1	1
5	腸に春滴るや粥の味	尚選1	1

高等学校教科書「国語Ⅰ」・「国語Ⅱ」における近・現代俳句教材

荻原井泉水（4回・3句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	かごからほたる一つ一つを星にする	学図2 学基2	2
2	月高くして漁火それぞれの座につけり	学図2	1
3	月光ほろほろ風鈴に戯れ	大新1	1

大野林火（3回・2句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	子の髪の風に流るる五月来ぬ	学基2 旺新2	2
2	ねむりても旅の花火の胸にひらく	明治2	1

久保田万太郎（3回・2句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	竹馬やいろはにほへとちりぢりに	大新1 角川1	2
2	したたかに水を打ちたる夕ざくら	旺文2	1

高柳重信（3回・2句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	船焼き捨てし／船長は／　　／泳ぐかな	明治2 新2	2
2	樹々ら／いま／切株となる／谺かな	新2	1

細見綾子（3回・3句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	春雷や胸の上なる夜の厚み	東新2	1
2	蕗の薹見つけし今日はこれでよし	東新2	1
3	つばめつばめ泥が好きなる燕かな	明治1	1

日野草城（3回・3句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	ものの種子にぎればいのちひしめける	日書1	1
2	うつくしきひとを見かけぬ春浅き	旺新2	1
3	雪の夜の紅茶の色を愛しけり	明治2	1

三橋鷹女（3回・3句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	折りあげて一つは淋し紙雛	角川1	1
2	この樹登らば鬼女となるべし夕紅葉	一新2	1
3	鞦韆は漕ぐべし愛は奪ふべし	一新2	1

星野立子（2回・1句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	囀をこぼさじと抱く大樹かな	日書1 三明1	2

藤田湘子（2回・1句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	愛されずして沖遠く泳ぐなり	三明1 角川1	2

松本たかし（2回・2句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	雪だるま星のおしやべりぺちやくちやと	明治1	1
2	夢に舞ふ能美しや冬籠	旺文2	1

富安風生（2回・2句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	初日まつこころしづかにたかぶりぬ	明治1	1
2	まさをなる空よりしだれざくらかな	明治2	1

前田普羅（2回・2句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	天暗く七種粥の煮ゆるなり	角川1	1
2	奥白根かの世の雪をかがやかす	旺文2	1

橋本鶏二（1回・1句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	秋水をがばりと脱ぎし鯉の肩	日書1	1

高等学校教科書「国語Ⅰ」・「国語Ⅱ」における近・現代俳句教材

石橋八束（1回・1句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	鍵穴に雪のささやく子の目覚め	日書1	1

秋元不死男（1回・1句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	子を殴ちしながき一瞬天の蝉	三省1	1

沢木欣一（1回・1句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	目に余る夏海なれば石擲ぐる	三省1	1

能村登四郎（1回・1句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	春ひとり槍投げて槍に歩み寄る	三明1	1

芥川龍之介（1回・1句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	水洟や鼻の先だけ暮れ残る	教出1	1

坪内稔典（1回・1句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	愛はなお青くて痛くて桐の花	大新2	1

橋本美代子（1回・1句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	さくらんぼ笑みで補う語学力	大新2	1

皆吉　司（1回・1句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	七月や林檎をシャワーもて洗ふ	大新2	1

加古宗也（1回・1句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	撥ねとばす一枚恋の歌がるた	大新2	1

山畑禄郎（1回・1句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	卒業証書まるめて覗く青き天	大新2	1

原　石鼎（1回・1句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	高々と蝶こゆる谷の深さかな	明治1	1

鷹羽狩行（1回・1句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	摩天楼より新緑がパセリほど	明治2	1

山口青邨（1回・1句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	人それぞれ書を読んでいる良夜かな	明治2	1

渡辺水巴（1回・1句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	さざ波は立春の譜をひろげたり	角川1	1

野沢節子（1回・1句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	さきみちてさくらあをざめぬたるかな	角川1	1

森　澄雄（1回・1句）

番号	俳句	掲載教科書	回数
1	かなかなや素足少女が灯をともす	角川1	1

高等学校教科書「国語Ⅰ」・「国語Ⅱ」における近・現代俳句教材

木下夕爾（1回・1句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	繭の中もつめたき秋の夜あらむ	角川1	1

室生犀生（1回・1句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	鯛(たひ)の骨たたみに拾ふ夜さむかな	角川1	1

三橋敏雄（1回・1句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	少年ありピカソの青のなかに病む	角川1	1

富沢赤黄男（1回・1句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	かなしさはきみ黄昏(たそがれ)のごとく去る	角川1	1

西島麦南（1回・1句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	人の眼(め)に涸(か)れぬ涙や秋の風	旺新2	1

松本恭子（1回・1句）

番号	俳　　句	掲載教科書	回数
1	フリージア逢(あ)った刹那(せつな)の五秒が好き	旺文2	1

以上，各俳人について，それぞれの句が教材として，どの教科書に採られているかを見てきたが，それによって，それぞれの俳句が何回，教科書採られているか，掲載された回数も判明した。それをもとに，掲載された延べの回数の多い順に，俳句を，掲載回数が3回以上のものに限って示すと，次の〔表6〕のようになる。

表6　俳句の作品別掲載回数

番号	俳　句	作　者
18	万緑の中や吾子の歯生え初むる	中村草田男
15	白牡丹といふといへども紅ほのか	高浜　虚子
14	いくたびも雪の深さをたづねけり	正岡　子規
12	芋の露連山影を正しうす	飯田　蛇笏
〃	分け入つても分け入つても青い山	種田山頭火
11	つきぬけて天上の紺曼珠沙華	山口　誓子
10	鰯雲人に告ぐべきことならず	加藤　楸邨
〃	滝落ちて群青世界とどろけり	水原秋桜子
9	柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺	正岡　子規
〃	寒雷やびりりびりりと真夜の玻璃	加藤　楸邨
〃	啄木鳥や落葉をいそぐ牧の木々	水原秋桜子
〃	夏草に汽缶車の車輪来て止まる	山口　誓子
8	うしろすがたのしぐれてゆくか	種田山頭火
〃	降る雪や明治は遠くなりにけり	中村草田男
7	海に出て木枯帰るところなし	山口　誓子
〃	雉子の眸のかうかうとして売られけり	加藤　楸邨
〃	桐一葉日あたりながら落ちにけり	高浜　虚子
〃	去年今年貫く棒の如きもの	高浜　虚子
〃	遠山に日の当りたる枯野かな	高浜　虚子
〃	糸瓜咲いて痰のつまりし仏かな	正岡　子規
6	くろがねの秋の風鈴鳴りにけり	飯田　蛇笏
〃	木の葉ふりやまずいそぐないそぐなよ	加藤　楸邨
〃	金剛の露ひとつぶや石の上	川端　茅舎
〃	外にも出よふるるばかりに春の月	中村　汀女
〃	玖瑰や今も沖には未来あり	中村草田男
〃	バスを待ち大路の春をうたがはず	石田　波郷
〃	冬蜂の死にどころなく歩きけり	村上　鬼城
5	赤い椿白い椿と落ちにけり	河東碧梧桐
〃	秋の航一大紺円盤の中	中村草田男
〃	鮟鱇の骨まで凍ててぶききらる	加藤　楸邨
〃	隠岐やいま木の芽をかこむ怒濤かな	加藤　楸邨
〃	かたつむり甲斐も信濃も雨のなか	飯田　龍太
〃	かりかりと蟷螂蜂の兒を食む	山口　誓子
〃	谺して山ほととぎすほしいまま	杉田　久女
〃	咳の子のなぞなぞあそびきりもなや	中村　汀女
〃	ぜんまいののの字ばかりの寂光土	川端　茅舎
〃	手毬唄かなしきことをうつくしく	高浜　虚子
〃	流れゆく大根の葉の早さかな	高浜　虚子
〃	ひらひらと月光降りぬ貝割菜	川端　茅舎
〃	ピストルがプールの硬き面にひびき	山口　誓子
〃	冬菊のまとふはおのがひかりのみ	水原秋桜子
〃	冬の水一枝の影も欺かず	中村草田男
〃	水枕ガバリと寒い冬がある	西東　三鬼
4	赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり	正岡　子規
〃	生きかはり死にかはりして打つ田かな	村上　鬼城
〃	炎天の遠き帆やわがこころの帆	山口　誓子
〃	葛飾や桃の籬も水田べり	水原秋桜子
〃	金亀子擲つ闇の深さかな	高浜　虚子

〃	コスモスを離れし蝶に渓深し	水原秋桜子
〃	咳をしても一人	尾崎　放哉
〃	痰一斗糸瓜の水も間に合はず	正岡　子規
〃	曳かれる牛が辻でずつと見廻した秋空だ	河東碧梧桐
〃	火の奥に牡丹崩るるさまを見つ	加藤　楸邨
〃	葡萄食ふ一語一語の如くにて	中村草田男
〃	プラタナス夜もみどりなる夏は来ぬ	石田　波郷
〃	流氷や宗谷の門波荒れやまず	山口　誓子
〃	痩馬のあはれ機嫌や秋高し	村上　鬼城
3	あはれ子の夜寒の床の引けば寄る	中村　汀女
〃	雁や残るものみな美しき	石田　波郷
〃	茎右往左往菓子器のさくらんぼ	高浜　虚子
〃	月光に深雪の創のかくれなし	川端　茅舎
〃	鷹のつらきびしく老いて哀れなり	村上　鬼城
〃	高嶺星蚕飼の村は寝しづまり	水原秋桜子
〃	鉄鉢の中へも霰	種田山頭火
〃	とどまればあたりにふゆる蜻蛉かな	中村　汀女
〃	どうしようもないわたしが歩いてゐる	種田山頭火
〃	麦秋の中なるが悲し聖廃墟	水原秋桜子
〃	ひつぱれる糸まつすぐや甲虫	高野　素十
〃	方丈の大庇より春の蝶	高野　素十
〃	蛍獲て少年の指みどりなり	山口　誓子
〃	蛍籠昏ければ揺り炎えたたす	橋本多佳子
〃	山国の蝶を荒しと思はずや	高浜　虚子
〃	雪山を匍ひまはりゐる谺かな	飯田　蛇笏
〃	若鮎の二手になりて上りけり	正岡　子規
〃	をりとりてはらりと重きすすきかな	飯田　蛇笏

5，おわりに

以上，現行の高等学校国語教科書「国語Ⅰ」・「国語Ⅱ」において，近・現代俳句が教材としてどのように扱われているかを調べてきた。この調査から判明したいくつかの点を指摘し，それに関する見解を記して，この報告を終わることにしたい。

ア，前回の調査結果との比較

筆者は，1978年に改訂された「高等学校学習指導要領」に基づいて，その際に新しく設けられた「国語Ⅰ」・「国語Ⅱ」の教科書における俳句の扱いについて，今からちょうど10年前に今回とほぼ同様の調査をして，その結果を「岐阜教育大学国語国文学」第6号（1987年3月）に「高等学校教科書『国語Ⅰ』『国語Ⅱ』における近代俳句教材」と題して報告している。

それと，今回の調査とを比較して，ある俳人の俳句が何種類の教科書が教材として延べにして何回とられているか，3種類以上の教科書に載せられた場合に限定して見てみると次の〔表7〕のようになる。

表7　10年前の調査との比較

順位	1986年の調査			順位	今回の調査		
	俳人名	載った教科書の数	載った回数		俳人名	載った教科書の数	載った回数
1	高浜　虚子	17種	49回	1	高浜　虚子	25種	65回
2	中村　草田男	17種	46回	2	山口　誓子	25種	58回
3	山口　誓子	16種	46回	3	中村　草田男	26種	57回
4	水原　秋桜子	16種	46回	4	加藤　楸邨	24種	55回
5	加藤　楸邨	13種	36回	5	水原　秋桜子	22種	51回
6	正岡　子規	12種	33回	6	正岡　子規	21種	50回
7	石田　波郷	10種	29回	7	種田　山頭火	17種	34回
8	飯田　蛇笏	10種	26回	8	飯田　蛇笏	16種	32回
9	村上　鬼城	7種	21回	9	石田　波郷	16種	32回
10	河東　碧梧桐	8種	20回	10	村上　鬼城	13種	29回
11	中村　汀女	4種	12回	11	川端　茅舎	11種	25回
12	川端　茅舎	4種	12回	12	中村　汀女	15種	24回
13	西東　三鬼	4種	10回	13	河東　碧梧桐	10種	21回
14	杉田　久女	3種	10回	14	飯田　龍太	9種	17回
15	飯田　龍太	3種	9回	15	杉田　久女	10種	16回
16	種田　山頭火	3種	9回	16	西東　三鬼	6種	11回
17	橋本　多佳子	2種	7回	17	尾崎　放哉	7種	9回
18	森　澄雄	2種	6回	18	高野　素十	4種	8回
19	金子　兜太	2種	6回	19	橋本　多佳子	5種	8回
				20	金子　兜太	6種	7回
				21	夏目　漱石	4種	6回
				22	荻原　井泉水	3種	4回
				23	大野　林火	3種	3回
				24	久保田万太郎	3種	3回
				25	高柳　重信	2種	3回
				26	細見　綾子	2種	3回
				27	日野　草城	3種	3回
				28	三橋　鷹女	2種	3回

上の〔表7〕の「10年前の調査との比較」は，大体の傾向を見るためのもので，それほど厳密なものとはいえない。10年前の調査の場合は教科書の種類が17種類であったのに対して，今回は26種類に増えており，同列には比較できない。また，前回の調査でも今回の調査でも，教科書の中には，「新」とか「新編」とか銘うって，内容が改訂されたように見えながら，

実際には，俳句教材に関するかぎり，すこしも変わっていないものがあるから，３種類以上の教科書に載せられた場合に限定したけれども，実質的には２種類と変わらない場合があるからである。

しかし，この表から，全体的には主要な俳人が，同じような順で並んでいるという，おおまかな傾向は察知できよう。前回の調査で１位から10位を占めた作者について見ると，今回の調査でも，ただ１人，河東碧梧桐が13位になって姿を消し，代わりに種田山頭火が16位から７位に急浮上しただけで，あとの９名は１・２番の順位の変動にとどまっている。

とはいっても，変動がないわけではない。種田山頭火が16位から７位に急浮上しているし，第３章の終わりのところでもすこし触れたように，前回の調査では１句も教科書に載らなかった俳人たち７名，すなわち高野素十・荻原井泉水・大野林火・久保田万太郎・高柳重信・細見綾子・三橋鷹女が姿を見せている。その中には，戦後になって活躍するようになった，新しい時代の作家の姿が見られる。

表8　上位10名の順位の移動

前回の順位	俳人	今回の順位
1	高浜　虚子	1
2	中村　草田男	3
3	山口　誓子	2
4	水原　秋桜子	5
5	加藤　楸邨	4
6	正岡　子規	6
7	石田　波郷	7
8	飯田　蛇笏	8
9	村上　鬼城	10
10	河東　碧梧桐	13

イ，自由律・無季の俳句を載せることについて

上の，アの項で述べたように，延べの掲載回数が多い順位で見ると，種田山頭火が16位から７位に急浮上している。彼の句をはじめとする自由律や無季の俳句は，全般的に先の調査の時と比べて，全体の中で占める位置は〔表９〕のように大きくなってきている。

表9　俳句の作品別掲載回数

	1986年の調査			今回の調査		
俳　人　名	載った教科書の数	句数	載った回数	載った教科書の数	句数	載った回数
種田　山頭火	３種	７句	９回	17種	11句	34回
河東　碧梧桐	８種	15句	20回	10種	10句	21回
尾崎　放哉	１種	１句	１回	７種	６句	９回
金子　兜太	２種	４句	６回	６種	５句	７回
荻原　井泉水	１種	２句	２回	３種	３句	４回
高橋　重信	——	——	——	２種	２句	３回

種田山頭火の「分け入つても分け入つても青い山」，尾崎放哉の「咳をしても一人」などのように叙情性をもった自由律の俳句や，高柳重信の

船焼き捨てし
船長は

泳ぐかな

のような，現代詩に近い，自由な発想の俳句の存在を若い学生たちに気づかせることは，俳句が必ずしも定型の古い枠にとらわれるものでないことを教えるもので，意味のあることであると考えられる。その点で，Ａの日本書籍の「新版高等国語Ⅱ」は，「革新と異端」と題して，水原秋桜子・山口誓子・加藤楸邨・尾崎放哉・種田山頭火の５名の句を３句ずつ載せるが，その中の放哉・山頭火の句，計６句が自由律の俳句であるのが，標題からも，自由律の句数の多さから見ても目立つ。

しかし，その一方で，Ｃの東京書籍の「新編国語」，Ｔの旺文社の「高等学校国語」，Ｖの尚学図書の「標準国語」，Ｗの同じく尚学図書の「新国語」，Ｙの第一学習社の「高等学校国語」，Ｚの同じく第一学習社の「新訂国語」には，自由律や無季の俳句を載せていない。

ウ，若い世代に適する作品を載せることについて

Ｊの大修館の「高等学校新国語Ⅱ」は高浜虚子・山口誓子・種田山頭火など９名の俳句，18句を載せた後に，「青春の俳句」と題して，次の５句を掲載している。

愛はなお青くて痛くて桐の花	坪内　稔典
さくらんぼ笑みで補う語学力	橋本美代子
七月やリンゴをシャワーもて洗う	皆吉　　司
撥ねとばす一枚恋の歌がるた	加古　宗也
卒業証書まるめて覗く青き天	山畑　禄郎

また，Ｔの旺文社の「高等学校国語Ⅱ」には，俳句30句を載せるほかに，「俳句の魅力」と題する松本恭子の文章があり，その中には

フリージア逢った刹那の五秒が好き

という，自作を引用してある。

これらの６句の俳句としての価値には，人によっていろいろな評価があろうと思われるが，俳句を自分たちにとって身近な，興味の持てる文学形式と感じさせ，教室を活気づける効果

をもつと思われる。現行の高等学校国語教科書の短歌教材には，俵万智の

「この味かいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日

などの作品があって注目され，ほかにも寺山修司などの比較的に若い世代の作品が目につく。それに比べると，俳句教材にはそれに対応するような作品が乏しいように感じられるだけに，上記の大修館と旺文社の教科書の試みは貴重である。

エ，作品の配列について

各教科書の作品の配列を見てみると，多くの教科書は数人の俳人を選んで，その俳人の代表作とされるような作品を１句とか，３句とか載せる場合が多いが，中には春・夏・秋・冬・新年に分けて，それぞれ数句ずつ載せるものもある。その中で，Ｓの旺文社の「新国語Ⅱ」は，「青春」と題して，日野草城ほかの４句を，「愛情」と題して中村汀女ほかの４句を，「追想」と題して水原秋桜子ほかの４句を載せている。また，Ｅの学校図書の「基礎国語Ⅱ」は，「花」と題して高浜虚子ほかの３句を，「鳥」と題して尾崎放哉ほかの４句を，「虫」と題して正岡子規ほかの４句を，「野山」と題して種田山頭火ほかの３句を，「歳月」と題して石田波郷ほかの３句を，「幼子」と題して中村草田男ほかの４句を載せている。

こうした主題別に分けた配列，特に前者の，「青春」「愛情」「追想」という若者の生活と直結した作品の配列は，ともすると俳句を花鳥風月と結びつけ，ただ自然の美を写すのが俳句であるとするような考え方を見直し，俳句への関心を深めさせる，意義あるやり方であると考えられる。

オ，仮名づかいについて

ウで取り上げた，Ｊの大修館の「高等学校新国語Ⅱ」の「青春の俳句」は５句のうち４句の俳句本文が現代仮名づかいで書かれている。Ｔの旺文社の「高等学校国語Ⅱ」の松本恭子の句も，俳句が現代仮名づかいで書かれている。また，Ａの日本書籍の教材の俳句の振りがなや，同じ教科書に載っている大岡信の鑑賞文「折々のうた」に引用された俳句の振りがなは，現代仮名づかいである。

26種類の教科書のうち，上記以外の教科書は，教材の俳句そのものも「かひな」「寄りあひて」「まさをなる」「ぺちやくちやと」のように歴史的仮名づかいであり，振りがなも蝶（てふ）・鮟鱇（あんかう）・怒濤（どたう）・溶鉱炉（ようくわうろ）・大路（おほじ）・火傷（くわしやう）などのように歴史的仮名づかいである。

もともと同じく歴史的仮名づかいで書かれた作品でも，小説や詩の場合は現代仮名づかいに直してある場合が多いのに，俳句の場合は，直さないで，読みにくいというよりも，振りがなをつけても読みを助ける働きをなさないような仮名づかいをいつまでも続けることには疑問がある。俳句が古典の教材としてでなく，現代文の教材としてとられていることを考慮

して，振りがなだけでも，早く現代仮名づかいに改めることを提案する。

同じ国語教科書の中でも，近・現代短歌の場合には，現代仮名づかいで書いてある作品が，寺山修二・俵万智・佐佐木幸綱・岡井隆・李正子・岸上大作・清原日出男など，相当の数にのぼっているのに対して，近・現代俳句の場合は，その数がきわめて少ないのは，新しい世代の作者の登場が，短歌の場合に比べて少ないこととともに，深く考えなければならない問題であると思われる。

〔付記〕

この調査は，どちらかというと数量的な調査にとどまって，各教科書が「学習の手引き」や「課題」などの形で，俳句作品をどのように教材として扱おうとしているかといった，質的な調査が手薄であるが，その調査については次の機会にゆずりたい。

また，同じく短詩型文学である近・現代短歌の高等学校国語教科書の取り扱いについては，「高等学校教科書『国語Ⅰ』・『国語Ⅱ』における近・現代短歌教材」と題して，「聖徳学園岐阜教育大学紀要」第32集（平成８年９月発行）に発表している。ご覧いただければ幸いである。